効果的なアクティブ・ラーニングを実践するために必要な基礎力に関する知見を幼児教育現場に還元する試み～作成したリーフレットの有効性の検証および情報収集～

池田泰子（岩手大学教育学部）*，千葉紅子・渡邉奈穂子・髙橋文子・北條早織・
小野章江・川村真紀（岩手大学教育学部附属幼稚園）**,
菊池明子（岩手大学教育学部附属特別支援学校）***

（平成 31 年３月４日受理）

１．はじめに

文部科学省は学習指導要領の等改訂案を公表し、幼稚園は平成 30 年度、小学校は 32 年度、中学校は 33 年度から全面実施される予定である。今回の改訂では、一方的に知識を得るだけでなく「主体的・対話的で深い学び」いわゆるアクティブ・ラーニングの視点からの授業改善をさらに充実させることを掲げている。

アクティブ・ラーニング学習においてより深い学びを得るためには、幼児期にどのような基礎力を培うべきかというリサーチクエッションを掲げ、平成 29 年度教育学部プロジェクトにおいて附属幼稚園の教育実践分析と教諭を対象とした質問紙調査結果をもとに、リーフレット「友達とのやりとりを楽しむための幼児期の土台づくり～効果的なアクティブ・ラーニングを目指して～」としてまとめた（図 1）。

図１　作成したリーフレットの表

本研究では、作成したリーフレットを保育者と保護者に配布後、質問紙調査を通して得られた情報を分析して、リーフレットの有用性を検証するとともに、より活用しやすい内容に改訂することを目的としている。質問紙調査では、リーフレットの有用性の検証に加えて、リーフレットの内容を実践した後の子どもの具体的な変化についても情報収集する。

２．方法

本研究では、３種の方法で調査を実施した。対象Ａは、Ａ幼稚園の保護者を対象とした。夏休み前に担任からお便りとしてリーフレットと質問紙調査を配布し、夏休み明けに回収した。対象 B は、口頭で調査協力を打診し、了承の得られた 8 箇所の幼稚園・保育園に所属する保育者を対象とした。対象 C は、幼稚園の公開やことばに関する研修会に参加した人を対象とし、当日回収した。

質問紙調査票の文頭には、「研究の目的」「データの取扱」「提出しないという選択があり、提出したことにより研究に同意したと判断する」など、個人情報の扱いなどに関する情報を記載した。

質問紙調査項目は対象によって異なり、実践期間を経て回収した保護者と保育者を対象としたものは、「リーフレットの有効度」「参考になった内容」「子どもの変化」「日頃の実践で大事にしていること」「今後欲しい情報」などを設置し、配布当日に回収した調査票には、「子どもの変化」の欄を削除したものを使用した。

３．結果と考察

（1）対象者

1）対象Ａ（保護者、３週間後に回収）

幼稚園に通う子どもの保護者を対象とした。リーフレットの内容を実践していただく期間を取り、配布から３週間後に回収した。対象Ａの回収数は 70 名、記入者の内訳は父親が３名、母親が 66 名、未

記入が１件であった。

2）対象Ｂ（保育者、３週間後に回収）

８園に所属する保育者を対象とした。リーフレットの内容を実践する期間を取り、配布から 2～3 週間後に回収した。対象Ｂの回収数は 98 名、記入者の所属内訳は幼稚園教諭が 40 名、保育園教員が 64 名、子ども園教諭が 22 名であった。

3）対象Ｃ（幼児教育やことばの発達に興味のある人、当日回収）

幼稚園の公開保育研究会（1 園）とことばの発達に関する研修会（2 箇所）に参加した人を対象とし、配布当日に回収した。回収数は 127 名、記入者の内訳、幼稚園教諭は 40 名、保育園は 38 名、子ども園が 34 名、学校関係が 5 名、保護者は 2 名、その他が 4 名、未記入が 4 名であった。

本調査では対象Ａ、Ｂ、Ｃを合計した 295 名を分析の対象とした。

(2) リーフレットの有用度

本リーフレットの有効性を把握するために「本リーフレットは子どものコミュンケーション力を促すことに役立つと感じましたか」と尋ね、「感じた」「やや感じた」「あまり感じなかった」「感じなかった」の 4 件法で回答を求めた。

未記入の 20 名を除いた 275 名の回答を集計したところ、「役立ったと感じた」と回答した割合は 74.2%、「やや役立ったと感じた」は 25.1%、「あまり役立ったと感じなかった」は 0.7%、「役にたったと感じなかった」と回答した割合は 0.4%であった。多くの人が役立ったという回答であった。

父親・母親を保護者群（70 名）、幼稚園・保育園・子ども園を保育者群（19 名）とし、回答を集計した（図 2）。結果、「役立ったと感じた」と回答した割合は、保護者群が 62.9%、保育者群が 77.7%であり、保育者の割合が高かった。

(3) 役に立った内容

リーフレットの中で役に立つと感じた内容がある場合は、その内容を記述するよう指示した（複数回答可）。

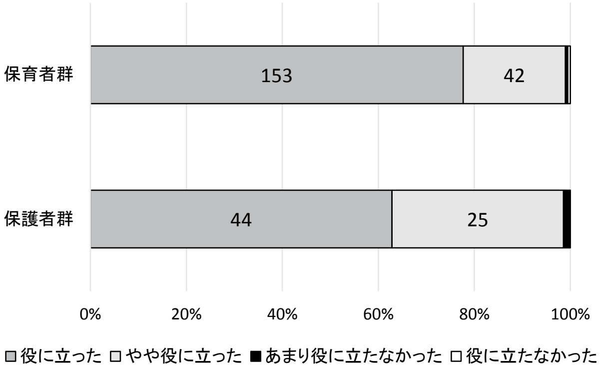


図 2　リーフレットの有用度

結果、未記入であったのは 80 名であり、215 名が記述した。回答内容数は 332 件、22 種の内容が挙げられた。

一番多く挙げられた内容は、215 名中 30 名（14.0%）が挙げた「大人の忙しい様子を感じると、子どもは話しかけることを躊躇することがあります」というタイトルの内容であった。2 番目に多かったのは、215 名中 29 名（13.5%）が挙げた「失敗場面も考えるエクササイズの場です」というタイトルの内容であった（図 3）。3 番目に多かったのは

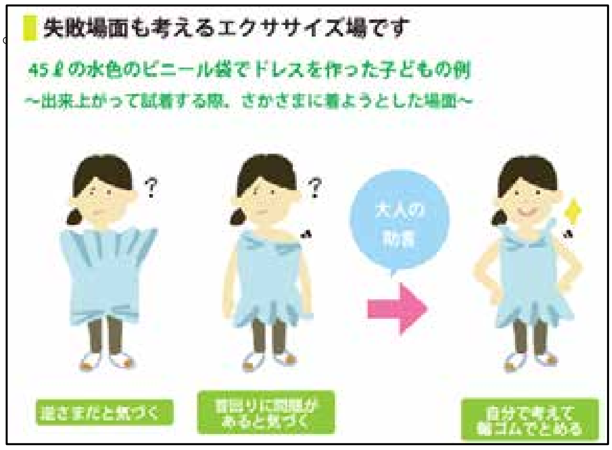
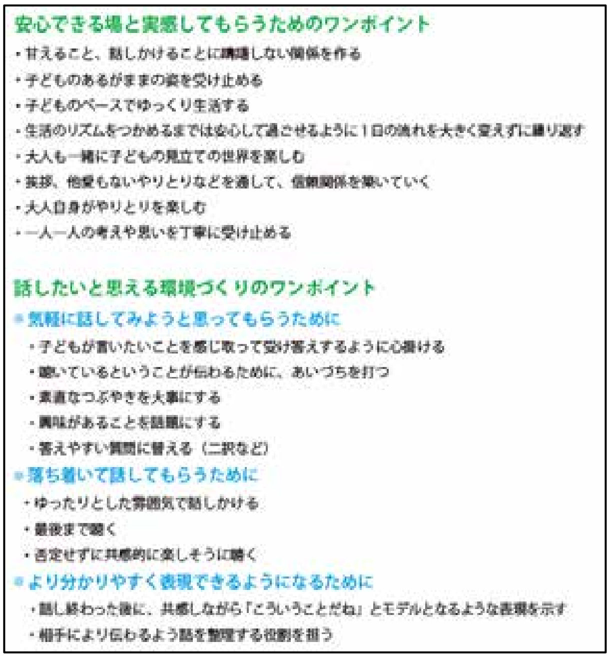


図 3　リーフレットの内容

215 名中 26 名（12.1%）が挙げた「大人の見守りが子どもの創造力を促し、満足感を高めます。子どもの活動を見て、子どもの意向を汲み取りつつ必要に応じて守ってあげること（援助）が重要な役割です」などのワンポイントアドバイスであった。同率で 4 番目に多かったのは、215 名中 26 名（12.1%）が挙げた「集団場面においてその子らしさ（個性）を導くワンポイント」というタイトルの内容であった（図4）。次に多かったのは、215名中20名（9.3%）が挙げた「大人とのやりとりの場面で受け止められ



安心できる場と実感してもらうためのワンポイント

- 甘えること、話しかけることに躊躇しない関係を作る
- 子どものあるがままの姿を受け止める
- 子どものペースでゆっくり生活する
- 生活のリズムをつかめるまでは安心して過ごせるように１日の流れを大きく変えずに繰り返す
- 大人も一緒に子どもの見立ての世界を楽しむ
- 挨拶、他愛もないやりとりなどを通して、信頼関係を築いていく
- 大人自身がやりとりを楽しむ
- 一人一人の考えや思いを丁寧に受け止める

話したいと思える環境づくりのワンポイント

気軽に話してみようと思ってもらうために

- 子どもが言いたいことを感じ取って受け答えするように心掛ける
- 聴いているということが伝わるために、あいづちを打つ
- 素直なつぶやきを大事にする
- 興味があることを話題にする
- 答えやすい質問に替える（二択など）

落ち着いて話してもらうために

- ゆったりとした雰囲気で話しかける
- 最後まで聴く
- 否定せずに共感的に楽しそうに聴く

より分かりやすく表現できるようになるために

- 話し終わった後に、共感しながら「こういうことだね」とモデルとなるような表現を示す
- 相手により伝わるよう話を整理する役割を担う

図４　リーフレットの内容

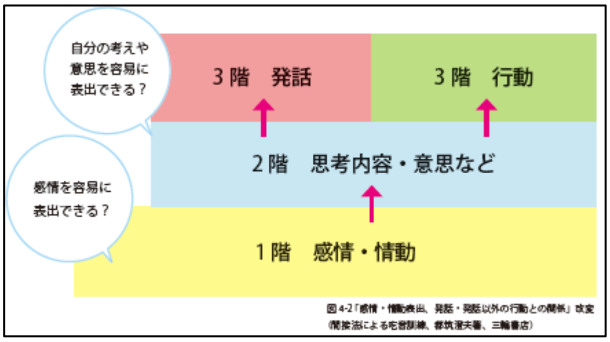


図５　リーフレットの内容

た経験を重ねると、話す場面の緊張が緩和されます」というタイトルの内容であった。発話や行動を表出できるようになる前に「感情（1 階)」や「意思（2 階)を躊躇無く表出できる体験が重要であることを示す図（図 5）を掲載している。

(4) 子どもの変化に関する記述

リーフレットを配布してから実践期間を設け、質問紙調査を回収した対象Ａと対象Ｂを合計した 168 名の結果をまとめた。

「本リーフレットの内容を実践したことで、子どもやクラスに変化がみられた場合のエピソードを教えてください」と指示し、自由記述で回答を促した。

1) 「後でね」という対応について

保護者の回答で多かったのは、子どもが話しかけてきたときに「後で」という対応についてであった。リーフレットに記載されている内容は、『「後で」という対応は子どもの話したい思いをさらにふくらませます。自分は受け止めてもらっていると満足している子どもは「後で」の対応でも納得できますが、受けとめてもらっているという満足感の低い子どもは強く主張しないと聞いてもらえないと必死です。』である。

保護者が記載したエピソードを一部下記に抜粋した。

「子どもの言いたいことをまず受け止めてみるようにしたところ、今までだとこちらの顔色を伺う様子を見せていたのが、聞いてもらったことで満足しているのか、集中して遊ぶ様子が多くみられるようになったと感じます。」「下の子がぐずって泣いているときなどは特に上の子の話を聞いてあげることができず、「後でね」と待たせてしまっていたが、上の子と一緒にあやしたり、笑わせたりすることで、コミュニケーションを増やすことを心掛けた。そのおかげか、不満そうに強く主張することが減ってきた。」「本当に自分の口癖のように「ちょっと待ってて」「あとでね」と言ってしまっています。子どもは、「今来て欲しいの」「遅い」などとどんどん声高になり、そしてついにこちらも大きな声で怒ってしまって後に自己嫌悪になっていました。何に追われているんでしょうね。最終的には眠る時間が 15 分～30 分程度遅くなるだけ。一息ついてその時向き合おう、そう思いました。」

保育者から寄せられたエピソードの一部を下記に抜粋した。

「どんなに忙しい時でも「後でね」という言葉は使わずできるだけその時に話しを聞くよう心掛けた。その結果、話を聞いてもらった子は、その後何度も私を目で追い、ニコっとほほえむなど受け止められた喜びを感じている様子であった。子どもにとっての「今」を今後も大切にしていきたい。」「乳児クラスはまだ言葉を発する子は少ないが、子どもが自ら喃語や簡単な言葉で思いを伝えようとした時には、やっている作業を一旦やめて子どもの方を向いて話を聴くことで、喜んで話をする姿がよくみら

れるようになり、言葉も少しずつ増えてきた。」

2）失敗も考えるエクササイズについて

保護者が記載したエピソードを一部下記に抜粋した。

「牛乳パックを使ってお人形の家を作りたいと兄弟でつくっていましたが、どうやって 2 階建てを作るか、牛乳パックの切り方、部屋の広さなど意見交換しながら作成していました。簡単な方法を伝えようと思いましたが、見守りました。私(保護者)は子ども達に指示された、押さえたり、かたいところを切ったりすることのみ行いました。間違ったところにはさみを入れたり、失敗しても、ここをテープで貼ってこうしたらいいんじゃないとアイディアを出し合い、修正し、完成しました。以前にも親が主体となって作った家がありますが、それよりも自分達で作り上げた家の方が良いのかシンプルでも満足感が高いものを使い人形遊びをしています。」「洗濯物を干した時、くしゃくしゃにねじれたように干したのを知っていましたが、見守りました。取り込む時にちゃんと自分で干したものを見ていて、「何でパリパリなんだろう。こっちのはやわらかい。一緒に洗ったのにね」と気がついたようでした。気がつくことができる子ども達を今後も自ら学ぶことができるように見守っていきたいと改めて感じました。」

保育者から寄せられたエピソードの一部を下記に抜粋した。

「衣服の着脱が一人でうまくできなかった子に対してどうしたらうまく着られるかを考えられるよう少し様子を見守ったところ、時間はかかったものの試行錯誤を繰り返しながら最終的には一人でできるようになった。その経験から以前では「できない」と着脱をあきらめていたが、今では一人で取り組むようになった。」「遊びに集中している子どもに声を掛けず、近くでその様子を観察していると、ひとり遊びに集中し、最初に作ったものからどんどん発展していった。途中で声掛けしていた時は、そこで集中が切れ、他の物に興味が移ったりしていたが、ひとり遊びに集中し、自分なりイメージを持って遊ぶようになった。」「プール遊びで保育士が「これします」と決めずに子ども同士で遊びを広げていく様子を見守っていたところ、「どうして水風船やおもちゃは軽いのに水の中に沈むのか」を子ども同士で話し合いながら様々な考えを出し合っていた。」

3）話すためには、感情（ビル 1 階）や意思（ビル 2 階）の表出が重要について

保育者から寄せられたエピソードの一部を下記に抜粋した。

「自分の思いを伝えられない子どもには、ついつい「人前で話する」ということに重点を置いて援助してしまいがちですが、そうではなく、その子のそもそもの 1 階や 2 階の土台が安定していないことを理解し、日ごろの関わりから気持ちを受け入れてもらう経験を重ねていってあげることが大切なのだと思いました。」「感情や思いをなかなか表現できずにいる子に対して、優しく声かけしていった。時には手を握って視線を合わせて触れ合いながらコミュニケーションをとっていった。本児から反応がなくても繰り返し行っていったことで、話しかけに表情が和らぐようになった。また、何を伝えたい時は、保育士を見るようになった。」「子どもが泣いたり、怒っていたりした時、「どうしたの？」など理由を知ろうとするだけではなく、「嫌だったね」や「びっくりしたね」など気持ちを共感した声かけをしたことによって、気持ちを切り替え、次の遊びへスムーズに移行できていた。」

4）ただ聞いてもらいたいだけの場面もあるについて

保護者が記載したエピソードを一部下記に抜粋する。

「子どもはよくお話するが、「聞いてもらいたいだけ、お話したいだけかな？」と思い、なるべく返事は簡単に、言葉のキャッチボールを楽しむようにしたところ、「実はこう思っていたんだよね」とか「あの時不安だった」のような心の奥に隠していた言葉が出るようなりました。」

5）気の利いたコメントを求めているのではないについて

保育者から寄せられたエピソードの一部を下記に抜粋する。

「砂場で型抜きしている子どもの様子を見守っていると、何度もケーキの型に砂を入れて慎重にひっくり返している姿があった。思わず「ケーキ屋さんですか？」とか「ケーキください」といつもなら声をかけてしまうと思った。ここで少し子どもの楽しんでいることをじっくり見て、「ひっくり返ったね」「おー、きれいな型」「ギュギュギュ」など子どもの楽しんでいることや子どもの気づきにつながることば掛けをしてみたところ、子どもが「もっと！もっと！」というような表情でその後もじっくり遊ぶ姿があった。」

(5) 今後知りたい情報について

「コミュニケーションに関することで、このようなことを知りたい、このような情報があると役立つなどのご要望がありましたら、記述してください」という項目では、自由記述で回答を求めた。

79 件の内容が 117 件挙げられた。多かった内容は、「保護者と教師のコミュニケーション」が 11 件、「話したいことが話せない子への声掛け、関わり方」が 4 件、「保護者とのコミュニケーションの子どもの影響」「一人でじっくり遊ぶ子、友達同士の遊びができない」「友達同士のコミュニケーション」「兄弟の有無や数で社会性の構築に差が出るか、性差によるものがあるのか」「障害のある子とのコミュニケーションの取り方」「乱暴なことばづかいへの対応」「事例をもう少し出してほしい」「日本国籍以外の子どもとのコミュニケーションの取り方」が 3 件であった。

(6) 本リーフレットの意義に関する記述

自由記述欄において本リーフレットの意義について書かれた記述の一部を抜粋した。

＜保護者＞

・リーフレットを読んで改めて大切なことを再確認できたのがよかったです。子ども達を見守り、意向をくみ取り援助する。子ども達が安心できる安全基地を作る。何気なく過ごしているが意識して生活していこうと思います。
・リーフレットを読んだことで、親が子どもに大きな興味を持って、親も楽しみながら接すること、自然に身についていくよう導いていくことが親の役目と捉えることができました。
・このリーフレットには、「子どもへの愛情の伝え方」がとても分かりやすく具体的に書かれていて、親にとっても育児･育自の大きな支えとなると思います。

＜保育者＞

・保育園という集団の中で保育士に求められていることが集約されていると思われる。記載されているワンポイントを実践するためにも日々時間や気持ちのゆとりを思って生活していかなければならないと感じた。
・日々忙しい保育の中ではつい忘れがちや後回しにしている事を再確認して大切にしないといけないと改めて思えた。
・子どものコミュニケーション力を促すために、大人ができることがたくさんあり、子どもに求めるだけでは力にはならないのだと感じました。
・頭では分かっているが、具体的に子どもたちと関わる上でのポイントが記されていて、すぐに実践してみたくなるような内容でした。
・内容的には理解してるつもりだが、経験年数を重ねているうちに、どうしても忘れかけてしまったり、保育に対して妥協してしまったり、馴れ合ってしまったりすることがあるので、改めて幼少期の土台作りがいかに大切かを確認することができた
・わかっているつもりのことがことばにされているようでわかりやすかった。
・大人はつい頭が固くなり、「こういうものだ」「こうあるべきだ」という思いにとらわれがちだが、その思いが時には子どもの発想力のさまたげになっているかもしれない事に、改めて気づかされた。

・具体的なワンポントアドバイスがあったので、「考える」だけではなく、ここに気をつけてみよう、意識してみようと行動に移すきっかけにもなり、自分の保育を振り返りながら読んだ。
・自分の保育の自己評価をすることができるため、気づきにつなげることができた。結果、どのようにすると子どもにとってよいことなのか、具体的に記載されているため、気づいた後にすぐ保育実践できる内容になっている。
・実際に自分が保育している子どもの様子とも重ねやすく、イメージがしやすかったです
・普段、時間や余裕がないと、子ども達と楽しめる時間や会話など「大人の都合」にあわせがちだと改めて反省するともに、子どもがのびのびと過ごすためには、何が大切かポイントを改めて考えるきっかけとなった。
・子どもの気持ちが改めてよくわかるし、明日からこんな気持ちで保育してみようという気持ちになれた。

4. まとめ

リーフレットの有用性を検証するために、保護者と保育者など幼児と関わる人を対象に質問紙調査を実施した。

結果、対象の約 90%以上が役立ったという回答が得られた。自由記述において本リーフレットの有用性について記載されている内容から、具体的な有用性として下記５点が明らかになった。

1）子どものコミュニケーションを伸ばす引き出しが増えた
2）わかっているつもりのことが言葉にされているため、具体的に理解できた
3）日々の子どもとの接し方を見直すきっかけとなった
4）忙しさで意識できていなかったことを、改めて大切だと確認できた
5）経験の浅い保育者の学習教材（保育経験を補う役割）

本リーフレットは幼稚園教諭の教育実践と大学教員と特別支援学校教諭の相談経験を踏まえて作成したものであるため、取り上げられた場面は身近に感じられたことが役に立ったという回答が多かった要因の１つであることが考えられた。また、子どもと接する上で大切なことであると理解していることを文字や絵にしたことで、重要性を再認識し、教育や子育てに活かすことができたという声も多かったことから、子育て支援を行う際は新たな提案ばかりではなく、一般的であるとされている内容をリーフレットのような視覚的資料を見ながら確認するという方法も有効的であることが示された。

本調査では、大人の関わり方を変えたことで、子どもが変わったという報告が多数上げられた。今回のリーフレットには、大人の役割、大人の関わり方が子どもの成長にどのように影響するかという因果関係に関する情報、具体的な対応方法などの情報を掲載した。それを見ただけで、子どもが変わったということは、子どもの成長を願う気持ち、行動する力、子どもの変化を見取る力などは持ち得ている大人が多く、本リーフレットの情報が行動するきっかけとなり、効果的な行動サイクルが有効に働いたことが考えられる。行動サイクルが稼動すると、子どもと大人の両者にとって心地よい関係を築くことができるとともに、吃音などの障害の発症予防や早期改善につながることが期待できる。

今後は、知りたい情報として挙げられた内容に対応するだけではなく、具体例を増やして欲しいというニーズに対応し、今回寄せられた実践報告を取り上げ、リーフレットに加えることを検討している。

・文部科学省（2017）；新学習指導要領平成 29 年３月公示,
http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1383986.htm
・小林昭文(2017)；図解実践！アクティブラーニングができる本,講談社
・小林昭文(2017)；図解アクティブラーニングがよくわかる本,講談社
・西川純（2017）；アクティブラーニングの評価がわかる！,学陽書房